

7年ぶりに総合指数が上昇

～平成18年 福岡市消費者物価指数～

総務省統計局から毎月公表されている消費者物価指数について、平成18年の福岡市の概要を紹介します。

費目で上昇し、家具・家事用品、教養娯楽など4費目で下落しています。上昇した費目数が下落した費目数を上回ったのも7年ぶりのことです。(図2)

1. 概況

福岡市の平成18年平均の消費者物価指数(総合)は100.1で、前年に比べ0.1%上昇しており、平成12年以降下落を続けていた総合指数は、実に7年ぶりの上昇となりました。(表1, 図1)

季節等により変動の激しい生鮮食品を除く総合では99.9(対前年比-0.1%)となり、生鮮食品の値上がりが総合指数の上昇に大きく影響していることが分かります。

食料、住居、光熱・水道などの10大費目別に見ると、光熱・水道、諸雑費など6

消費者物価指数とは

消費者物価指数とは、全国の世帯が購入する各種の商品(財やサービス)の価格の平均的な変動を測定するものです。ある時点(基準年)の世帯の消費構造をもとに、これと同等のものを購入した場合に必要な費用がどう変動したかを指数値で表しています。基準は5年ごとに改定され、現在は平成17年を基準(指数=100)として、584品目が指数計算に採用されています。

表1 福岡市消費者物価指数の推移

(平成17年平均=100)

	総合	生鮮食品 を除く 総合	食料	住居	光熱・ 水道	家具・家 事用品	被服 及び履 物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
	指 数											
平成10年平均	104.7	104.2	108.3	96.5	103.5	137.9	105.8	102.4	101.2	94.9	113.9	97.3
11年 "	105.2	104.9	108.5	97.5	102.3	137.4	109.3	103.0	101.4	96.0	113.1	99.6
12年 "	104.3	104.2	106.2	98.2	102.8	131.2	107.3	102.4	101.7	97.0	110.7	100.4
13年 "	102.7	102.6	103.1	100.1	101.8	122.7	104.5	100.3	101.0	98.0	106.4	100.5
14年 "	101.4	101.5	101.3	101.7	101.1	115.9	98.5	97.4	100.4	98.2	103.8	99.1
15年 "	100.7	100.7	100.7	102.0	100.4	108.1	96.7	100.0	100.2	98.9	101.7	99.9
16年 "	100.3	100.1	101.1	100.7	100.4	101.0	96.8	100.7	100.0	99.5	100.4	99.3
17年 "	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
18年 "	100.1	99.9	100.2	100.3	102.0	97.9	100.4	99.2	99.8	100.7	98.8	101.4
(18年全国)	100.3	100.1	100.5	100.0	103.6	97.9	100.8	99.4	100.3	100.7	98.5	100.9
	対前年比(%)											
平成10年平均	1.0	0.7	1.5	1.2	1.1	1.1	1.5	7.2	1.0	4.3	1.6	0.8
11年 "	0.5	0.7	0.1	1.0	1.2	0.3	3.3	0.6	0.2	1.2	0.7	2.4
12年 "	0.9	0.7	2.1	0.8	0.5	4.5	1.8	0.6	0.3	1.0	2.1	0.8
13年 "	1.5	1.5	2.9	1.9	0.9	6.5	2.6	0.2	0.7	1.0	3.9	0.1
14年 "	1.3	1.1	1.8	1.6	0.7	5.6	5.7	2.9	0.6	0.2	2.5	1.4
15年 "	0.6	0.7	0.5	0.3	0.7	6.7	1.9	2.6	0.2	0.8	2.0	0.8
16年 "	0.4	0.6	0.3	1.3	0.0	6.6	0.1	0.7	0.2	0.6	1.2	0.6
17年 "	0.3	0.1	1.1	0.7	0.4	1.0	3.3	0.7	0.0	0.5	0.4	0.7
18年 "	0.1	0.1	0.2	0.3	2.0	2.1	0.4	0.8	0.2	0.7	1.2	1.4
(18年全国)	0.3	0.1	0.5	0.0	3.6	2.1	0.8	0.6	0.3	0.7	1.5	0.9

(注) はマイナスを表す

2. 10大費目別指数の動き

福岡市の消費者物価指数はいくつかの品目をまとめた中分類の段階までの指数が公表されています(本編17ページ参照)。ここでは10大費目ごとの指数と主な変動の要因になった中分類をみてみます。

【食料】 穀類(対前年比 -2.6%)は下落したものの、ウエイトが高い生鮮食品(同 +5.0%)が上昇し、食料全体では前年に比べ0.2%の上昇となりました。

【住居】 家賃(同 +0.6%)の上昇により全体としては0.3%の上昇となりました。

【光熱・水道】 灯油=他の光熱=(同 +25.3%)の上昇により、全体で2.0%の上昇となり、総合の上昇に大きく寄与しています。

【家具・家事用品】 家庭用耐久財(同 -6.0%)の下落が続き、全体でも2.1%の下落となりました。

【被服及び履物】 シャツ・セーター・下

着類(同 +2.1%)の上昇により、全体で0.4%の上昇となっています。

【保健医療】 医薬品・健康保持用摂取品(同 -1.5%)の下落により、全体でも0.8%の下落となりました。

【交通・通信】 ガソリン価格の値上がりにより自動車等関係費(同 +1.5%)が上昇したものの、通信(同 -3.8%)の下落が大きく、全体で0.2%の下落となりました。

【教育】 補習教育(同 +2.3%)の上昇により全体で0.7%の上昇となっており、教育費は毎年上昇を続けています。

【教養娯楽】 パソコン、薄型テレビなどを含む教養娯楽用耐久財(同 -20.7%)の下落が大きく、全体で1.2%の下落となりました。

【諸雑費】 身の回り用品(同 +6.8%)や、税の引上げによるたばこ(同 +4.6%)の上昇により、全体としては1.4%の上昇となっています。

図1 消費者物価指数(総合)の推移(福岡市,全国)

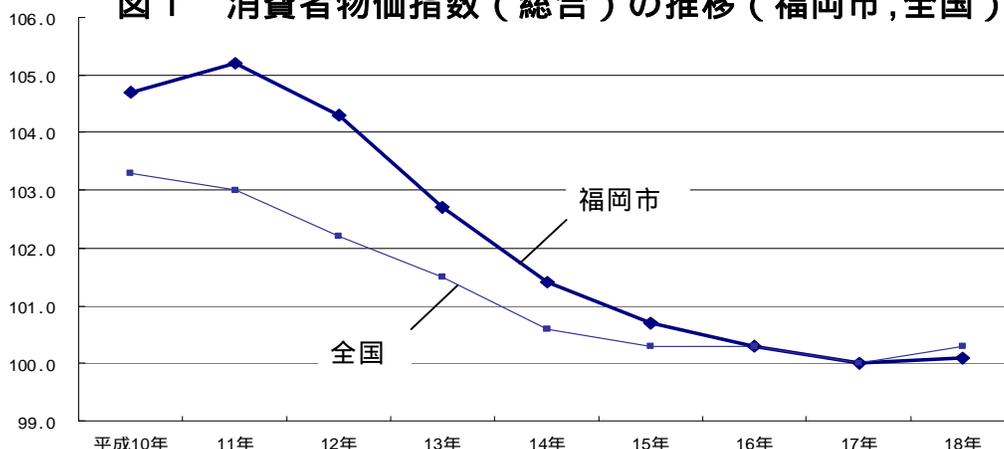
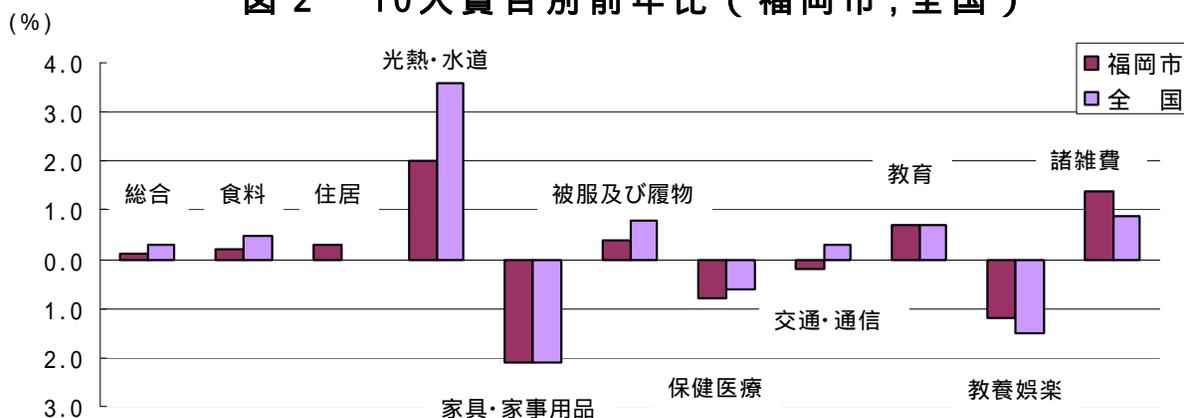


図2 10大費目別前年比(福岡市,全国)



3. 年間の動き

消費者物価指数の年間の動きを見ると、総合指数の最高値は8月、9月の100.8、最低値は2月、3月の99.5となっています。

10大費目別に見ると、食料が、8月に最高値102.1、3月に最低値98.7となっており、総合の動きに大きく寄与しています。

被服及び履物は例年と同様、季節の変

わり目ごとに上下しており、最高値は5月の103.5、最低値は2月の95.9となっています。

家具・家事用品では下落傾向が続いており、12月に最低の96.0となり、1年間で2.6ポイント下落しました。上昇傾向にあるのは、教育と諸雑費の2費目です。

(表2、図3)

図3 10大費目別平成18年月別福岡市消費者物価指数

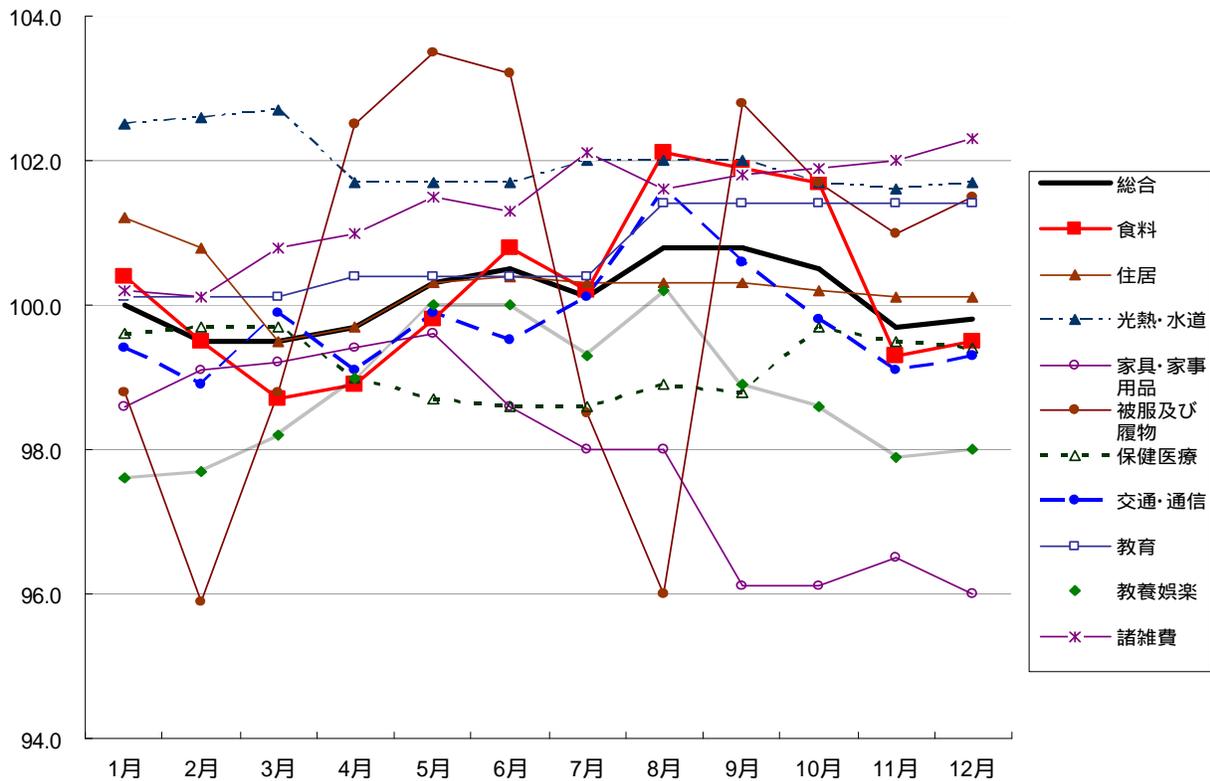


表2 10大費目別平成18年月別福岡市消費者物価指数

(平成17年=100)

費目	ウエイト	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合	10 000	100.0	99.5	99.5	99.7	100.3	100.5	100.1	100.8	100.8	100.5	99.7	99.8
食料	2 508	100.4	99.5	98.7	98.9	99.8	100.8	100.2	102.1	101.9	101.7	99.3	99.5
住居	1 755	101.2	100.8	99.5	99.7	100.3	100.4	100.3	100.3	100.3	100.2	100.1	100.1
光熱・水道	655	102.5	102.6	102.7	101.7	101.7	101.7	102.0	102.0	102.0	101.7	101.6	101.7
家具・家事用品	318	98.6	99.1	99.2	99.4	99.6	98.6	98.0	98.0	96.1	96.1	96.5	96.0
被服及び履物	521	98.8	95.9	98.8	102.5	103.5	103.2	98.5	96.0	102.8	101.7	101.0	101.5
保健医療	406	99.6	99.7	99.7	99.0	98.7	98.6	98.6	98.9	98.8	99.7	99.5	99.4
交通・通信	1 554	99.4	98.9	99.9	99.1	99.9	99.5	100.1	101.6	100.6	99.8	99.1	99.3
教育	442	100.1	100.1	100.1	100.4	100.4	100.4	100.4	101.4	101.4	101.4	101.4	101.4
教養娯楽	1 186	97.6	97.7	98.2	99.0	100.0	100.0	99.3	100.2	98.9	98.6	97.9	98.0
諸雑費	654	100.2	100.1	100.8	101.0	101.5	101.3	102.1	101.6	101.8	101.9	102.0	102.3

4. 大都市の状況

16大都市（数値の公表されていない浜松市と堺市を除く政令指定都市及び東京都区部）の年平均消費者物価指数（総合）を見ると、さいたま市、静岡市、京都市の3都市が下落し、神戸市で前年と同水準となりましたが、それ以外の12都市で上昇しています。最も大きな上昇となったのは横浜市と新潟市（ともに前年比+0.4%）で、最も大きな下落となったのは静岡市（同 -0.5%）です。

前年は全ての都市で下落したのに対し、18年は上昇した都市が多く、物価が上昇傾向にあるようにもとれますが、どの都市も前年の水準と大きくは離れておらず、全国的には一進一退の状態が続いているといえます。

10大費目別に見ると、光熱・水道と諸雑

費はすべての都市で上昇し、家事・家具用品と教養娯楽はすべての都市で下落しています。（表3）

消費者物価指数の全国平均を100とする地域差指数を見ると、最も高いのは東京都区部の111.0で、最も低いのは北九州市の99.2となっています。福岡市は100.4と全国平均に近い値で、16都市中では14番目となっています。（本編19ページ参照）

* * * * *

今回の特集は総務省統計局の資料により作成しました。また、本編17～19ページに消費者物価指数（福岡市、全国、大都市）を掲載していますので併せてご覧ください。

《 総務省統計局のホームページ 》
<http://www.stat.go.jp/>

表3 全国及び16大都市消費者物価指数

	18年 総合	対前年比(%)											
		総合	食料	住居	光熱・水道	家具・用品	被服	保健	交通・通信	教育	娯楽	養楽	諸雑費
全国	100.3	0.3	0.5	0.0	3.6	2.1	0.8	0.6	0.3	0.7	1.5	0.9	
札幌市	100.2	0.2	0.2	0.3	6.2	0.6	1.8	0.6	0.5	0.2	2.6	1.5	
仙台市	100.3	0.3	0.3	1.0	4.7	2.0	4.2	0.8	0.6	0.4	1.1	0.9	
さいたま市	99.9	0.1	0.1	0.0	3.4	3.6	0.4	0.7	0.2	1.1	1.7	0.4	
千葉市	100.3	0.3	1.0	0.1	3.2	3.8	2.9	0.1	0.3	0.5	1.6	0.4	
東京都区部	100.1	0.1	0.4	0.1	2.2	1.9	0.7	0.6	0.4	0.6	0.8	0.9	
川崎市	100.3	0.3	1.1	0.5	2.4	2.1	1.0	0.1	0.2	1.1	2.1	0.9	
横浜市	100.4	0.4	0.9	0.4	2.6	3.4	1.2	0.4	0.1	0.4	0.7	1.4	
新潟市	100.4	0.4	0.1	0.4	3.6	6.8	5.9	0.3	0.4	0.6	1.2	1.2	
静岡市	99.5	0.5	0.7	3.3	3.1	3.0	1.2	0.9	0.6	0.4	1.3	0.7	
名古屋市	100.2	0.2	0.4	1.1	2.6	2.8	0.6	0.6	0.2	1.1	1.9	0.3	
京都市	99.9	0.1	0.9	1.6	1.7	2.6	0.1	0.1	0.1	1.0	1.9	1.9	
大阪市	100.1	0.1	1.0	0.1	1.4	2.7	0.4	1.4	0.7	0.4	1.8	1.2	
神戸市	100.0	0.0	1.0	2.0	1.4	1.4	1.4	0.1	0.3	0.3	0.4	0.8	
広島市	100.2	0.2	0.4	0.7	3.2	2.4	1.6	0.4	0.5	0.4	1.4	0.5	
北九州市	100.1	0.1	0.4	0.1	2.0	4.4	0.1	0.6	0.4	1.0	0.9	1.5	
福岡市	100.1	0.1	0.2	0.3	2.0	2.1	0.4	0.8	0.2	0.7	1.2	1.4	